

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1898 号

Detection of *Arcobacter* species from human stool, by culture and real time PCR

(培養とリアルタイム PCR を用いたヒトの便からのアルコバクタの検出)

山内 悠子 (やまうち ゆうこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、ヒトの便におけるアルコバクタの検出方法について、臨床検体を用いて検討した、臨床的に意義ある論文である。アルコバクタは 1991 年に Vandamme らによってカンピロバクタと区別された、好気条件や 15-30 °C 程度の低温環境でも発育可能なカンピロバクタ科のグラム陰性桿菌だが、1992 年以降、腸炎のアウトブレイク、重症腸炎、菌血症、経胎盤あるいは産道感染などが報告され、新興病原菌として注目されている。本邦では畜産領域におけるアルコバクタの疫学調査は行われているが、ヒトにおいては菌血症の症例報告が 1 例あるのみで、疫学はわかっていない。*Arcobacter butzleri* による腸炎は、*Campylobacter jejuni* による腸炎と比較すると持続性水様性下痢が多く、血性下痢は少ない傾向にあるようだが、すべての症状が出現しないことも多く、臨床的に区別するのは難しい。アルコバクタはカンピロバクタ選択培地に発育し、先行研究で様々なアルコバクタ選択培地も考案されているが、アルコバクタを選択的に分離するのは容易ではなく、感度は PCR の方が優れている。本研究ではアルコバクタを検出する genus specific primer を作成し、臨床検体を用いて評価した。最小検出感度は先行研究と比較すると劣り、また種の決定はできないものの臨床検体から、ヒトに病原性をもつ *A. butzleri* と *A. skirrowii* が分離でき、疫学調査に用いることができる可能性が示唆された。疫学調査はアルコバクタがヒトに与える影響を調べる上で欠かせないものであり、本研究は臨床的に有意義であると考えらる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。